

「4つの畑」 トレーニング

教会開拓者訓練

- 第1章 「4つの畑」とは何か
- 第2章 荒地
- 第3章 種を蒔く地
- 第4章 芽を出した地
- 第5章刈り取る地
- 第6章 ビジョン実現のために

第1章 「4つの畑」とは何か？

(質問) 教会開拓するとき、何が必要ですか？

主題聖書箇所 (マルコ 4: 26-29) また言われた。「神の国は、人が地に種を蒔くようなもので、夜は寝て、朝は起き、そうこうしているうちに、種は芽を出して育ちます。どのようにしてか、人は知りません。地は人手によらず実をならせるもので、初めに苗、次に穂、次に穂の中に実が入ります。実が熟すると人はすぐにかまを入れます。収穫の時が来たからです。」

教会開拓に必要なのは、次の5つです。下の写真を見て、動作を練習しましょう。



(1) 人が



(2) 地に



(3) 種を蒔いて



(4) 芽を出して



(5) 刈り取ります

・・・では、1つ1つを解説します。

(1) 人が

(I ペテロ 2:9) 「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」

……教会開拓で一番必要なのは、土地でも会堂でもお金でもプログラムでもなく、「人」です。もっと言うなら「あなた」です。I ペテロ 2:9 によるなら、あなたは「祭司」です。イエス様を信じて1年であろうと1ヶ月であろうと、牧師であろうと信徒であろうと、クリスチャンなら万人みな祭司なのです。祭司は、神と民との間に立って、神のみわざを宣べ伝えます。教会開拓は、牧師だけがするものではありません。あなたも開拓できます。男か女か、大人か子どもか、学歴、信仰歴、教職資格があるかないか、全く関係ありません。あなたも今すぐ、家で教会を始められるのです。神は普通の平凡な人を通して、非凡で偉大なみわざをなさいます。今、声を出して自分自身にこう宣言して下さい。「私は祭司です！私も教会開拓できます！」

(2) 地に

(ローマ 15:20) 「このように、私は、他人の土台の上に建てないように、キリストの御名がまだ語られていない所に福音を宣べ伝えることを切に求めたのです。」

……教会をどこに開拓するのでしょうか？それは、キリストの御名がまだ語られていない所、教会のない所です。あなたの周りに、教会がない村、町、地区、職場、学校、親戚、その他の社会的グループがありますか？そこがあなたの宣教地です。未信者はどこにいますか？未信者は教会の中ではなくて、外にいます。未信者を教会に誘うのではなくて、未信者のいる所に行って、その所を教会として下さい。教会は世の光です。教会のない地は、暗やみの中にいます。どんなに小さな教会でも、その小さな光を灯すときに、その地が明るく照らされるのです。そうするときこそ、この全地は主の栄光で満たされるのです！

(3) 種を蒔いて

(ローマ 10:17) 「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」

……教会開拓とは、みことばの種を蒔くことです。人間関係作り、人間的な良いこ

とばだけで終わってはいけません。伝道とは、口がうまい人だけがするものではありません。他宗教とどう違うか議論することでもありません。キリスト教の教理を教えることでもありません。聖書の聖句をそのまま直接「宣言」することです。「神はこう言っておられる」と言うときに、権威があるのです。神のみことばには、力があります。聖霊は、ご自身のことばを通して働かれます。聖書のみことばを、あらゆる方法で広めて下さい。とにかく、まずは耳で「聞かせる」ことです。福音を聞かせたら、たとえ受け入れなくても、後は聞いた本人の責任です。しかし、聞かせるのは、あなたの責任なのです。「反応はどうか」などと、あれこれ考え過ぎずに、まずはやってみて下さい。出会う全ての人に福音を聞かせて下さい。町中を福音で満たして下さい。豊かに蒔く者は、豊かに刈り取るのです。

(4) 芽を出して

(I コリント 3:6-7)「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。」

……人がやる部分と、神がやる部分があります。この区別を知ることは大切です。私たちは「神の協力者」なのです。もちろん、私たちは一生懸命伝道し、フォローアップし、みことばを教えます。愛を持って1人1人を世話して、助け、励まし、その人のために祈り続けます。しかし、私たちがやるべきことをちゃんとやったら、結果は神にゆだねましょう。「地は人手によらず実をならせるもの」であり「どのようにしてか、人は知りません」と書いてあります(マルコ 4:27-28)。なかなか芽が出ないからと言って、がっかりしたり、くよくよしたりしないで下さい。または逆に「私がやった」と言って、誰も誇ることはできません。人を霊的に成長させるのは、神のみわざなのです。だからこそ、その人を通して、神の栄光が現されるのです。

(5) 刈り取ります

(ガラテヤ 6:9)「善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取ることになります。」

……「刈り取り」こそが私たちの目標です。このビジョンをはっきり持って下さい。私たちはその時のために種を蒔き、水を注ぎ、働いているのです。他のことにとらわれて、限りある時間とお金と労力を無駄に使ってはいけません。このビジョン実現に向かって、あなたの全力を集中して下さい。刈り入れで大切なのは「時」です。「神の時」を待って、よく見分けることです。「実が熟すると人はすぐにかまを入れます。収穫の時が来たからで

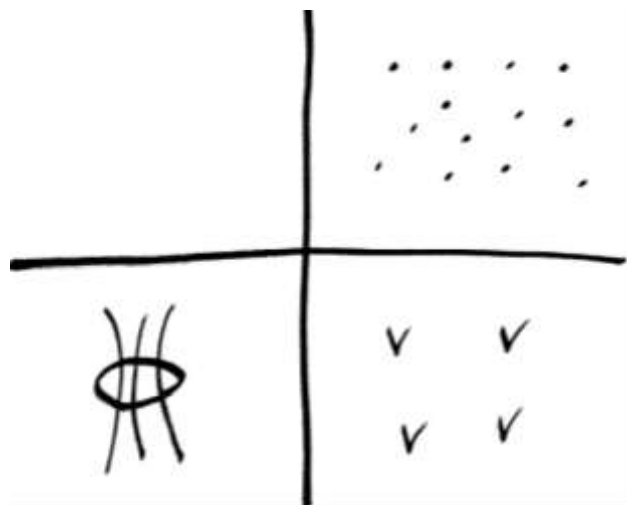
す」(マルコ 4:29) 熟練した農夫は、その時の見分け方を知っています。その時が来たら「すぐに」刈り取ります。早すぎても、遅すぎてもいけません。ちょうど良い時、というのがあるのです。

教会開拓にも、必ず「魂の収穫の時」が来ます。本当にビジョンのある人は、いつか時が来ると信じて、その瞬間のために今から準備します。準備のできている人だけが、その収穫にあずかるのです。失望しないで、あきらめず、忍耐と希望を持って、飽きずに働き続けて、その時を待ちましょう。期待しながら、信仰を持って準備しましょう。ビジョンは必ず実現すると、口で告白して宣言しましょう。あなたの信仰の通りになります。その時が来たら、あなたは「束をかかえ、喜び叫びながら帰って来る」のです！(詩篇 126:6)

4つの畑(図を書く)

(1) 荒地

(2) 種を蒔く地



(4) 刈り取る地

(3) 芽を出した地

(課題) 5つの動作を覚える。図を書く。

第2章 荒地

(質問) どうやって入りますか？

主題聖書箇所 (ルカ 10 : 1-11)

(1) その後、主は、別に七十人を定め、ご自分が行くつもりのすべての町や村へ、ふたりずつ先にお遣わしになった。

(2) そして、彼らに言われた。「実りは多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主は、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。

(3) さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあなたがたを遣わすのは、狼の中に小羊を送り出すようなものです。

(4) 財布も旅行袋も持たず、くつもはかずに行きなさい。だれにも、道であいさつしてはいけません。

(5) どんな家に入っても、まず、『この家に平安があるように』と言いなさい。

(6) もしそこに平安の子がいたら、あなたがたの祈った平安は、その人の上にとどまります。だが、もしいないなら、その平安はあなたがたに返って来ます。

(7) その家に泊まっていて、出してくれる物を飲み食いしなさい。働く者が報酬を受けるのは、当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけません。

(8) どの町に入っても、あなたがたを受け入れてくれたら、出される物を食べなさい。

(9) そして、その町の病人を直し、彼らに、『神の国が、あなたがたに近づいた』と言いなさい。

(10) しかし、町に入っても、人々があなたがたを受け入れないならば、大通りに出て、こう言いなさい。

(11) 『私たちは足についたこの町のちりも、あなたがたにぬぐい捨てて行きます。しかし、神の国が近づいたことは承知していなさい。』

・・・荒地のように、教会が1つもない地に入るには、次のようにします。写真を見て、動作を練習しましょう。



(1) 2人が



(2) 祈って



(3) 入って



(4) 平安の子を探して



(5) その家にとどまります

・・・では、1つ1つを解説します。

(1) 2人が

(ルカ 10:1) その後、主は、別に 70 人を定め、ご自分が行くつもりすべての町や村へ、ふたりずつ先にお遣わしになった。

・・・なぜ 2 人でしょうか？ 1 人では孤独になって挫折しやすいし、3 人では、一致するのが難しいからです。でも、2 人ならば、互いに助け合い、励まし合って、互いに相手の持っていない所を補い合うことができます。夫婦が開拓ビジョンで一致して働くなら、それが一番良いです。男同士 2 人、女同士 2 人でも大丈夫です。1 人で始めないで、まず同じビジョンを持った同労者が与えられるように、祈り求めましょう。チームワークは大きな力となります。

(2) 祈って

(ルカ 10:2) 実りは多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。

・・・2人がチームになったら、まず何をすべきでしょうか？それはまず2人で心を合わせて祈ることです。では、何と祈れば良いのでしょうか？それは、「働き手を送って下さい」と祈るのです。「働き手」はどこにいるのでしょうか？それは、外部からではなく、畑の中、収穫の中にいます。外部からの働き手は、やはり「よそ者」としての限界があります。その町や村の出身者の中から「平安の子」が起こされたら、その人がもっと効果的に直接収穫するようになります。祈りの大切さは、いくら強調してもし過ぎることはありません。まず平安の子に出会えるように、主の導きを求めて祈りましょう。

(3) 入って

(ルカ 10:3) さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあなたがたを遣わすのは、狼の中に小羊を送り出すようなものです。

・・・教会のない町や村というのは、サタンが縛っている地域です。危険や困難、サタンの攻撃があるのは、当たり前です。それでも入って行く、という勇気と決断が必要です。人間は皆、自分が快適な場所から出たくないものです。教会開拓するには、人が来るのを家の中で待っていてはいけません。意識的に外に出て行くのです。時には、外に追い出されることもあります。でも、出て行くときに、祝福があるのです。

(4) 平安の子を探して

(ルカ 10:5-6) どんな家に入っても、まず、「この家に平安があるように」と言いなさい。もしそこに平安の子がいたら、あなたがたの祈った平安は、その人の上にとどまります。だが、もしいないなら、その平安はあなたがたに戻ってきます。

・・・平安の子とは、どんな人でしょうか？外部の伝道者を喜んで家に迎え入れる人です。食事を出して、その伝道者の語ることを聞いて、心を開いて受け入れる人です。その人は、この外部者たちの「身元保証人」となって、彼らを村の人たちに紹介してくれるようになります。そしてこの平安の子の証しを通して、村の多くの人たちが福音を受け入れるようになるのです。

(5) その家にとどまります。

(ルカ 10 : 7) その家に泊まっていて、出してくれる物を飲み食いしなさい。働く者が報酬を受けるのは、当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけません。

・・・平安の子が見つかったら、その家にだけとどまって、その家族全員が救われるように導きます。そうすれば、その家が教会となり、その家族の父親が指導者となります。外部者が他の家を次々と渡り歩いてはいけません。1つの家族に集中して、その家族全体が主の弟子となるように養育します。平安の子の家族が自分で教会を導き、自分で伝道して、次々と家の教会を生み出していくようにするのです。

[聖書の中に出て来る、平安の子の例]

(1) コルネリオ

(使徒 10 : 24) コルネリオは、親族や親しい友人たちを呼び集め、彼ら（ペテロたち）を待っていた。

(2) ルデヤ

(使徒 16 : 14-15) テアテラ市の紫布の商人で、神を敬う、ルデヤという女が聞いていたが、主は彼女の心を開いて、パウロの語る事に心を留めるようにされた。そして、彼女も、またその家族もバプテスマを受けたとき、彼女は、「私を主に忠実な者とお思いでしたら、どうか、私の家に来てお泊りください」と言って頼み、強いてそうさせた。

(3) 牢屋の看守

(使徒 16 : 33-34) 看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。それから、ふたりをその家に案内して、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。

(課題) 5つの動作を覚える。2人組で、平安の子に出会えるように祈る。どこの地域に、いつ入るのか計画を立てる。

第3章 種を蒔く地

(質問) どうやって伝道しますか？

主題聖書箇所 (ヨハネ 4: 28-30) 女は、自分の水がめを置いて町へ行き、人々に言った。「来て、見てください。私がしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのではないでしょうか。」そこで、彼らは町を出て、イエスのほうへやって来た。

まず最初に、質問します。

「伝道できる人とは、どんな人でしょうか？」(トレーニング参加者に挙げてもらう)

熱心な人、霊的に成熟した人、聖書を良く知っている人、寛容で忍耐力のある人、性格が良い人、恥ずかしがらず、よく話せる人、議論に強い人、周りの評判が良い人、身分や地位がある人、知識がある人、救いの確信がある人、洗礼を受けて教会に行っている人、ちゃんとした信仰生活・教会生活をしている人・・・・・・私たちは、このような人が、よく伝道できると考えます。

では、サマリヤの女は、どんな人だったのでしょうか？(上記の特徴と比べてみる)

夫が以前 5 人いて、罪深い生活をしていた人、寛容も忍耐力もない人、周りの評判が悪い人、周りの目を避けて、恥ずかしがって、人と話したがらない人、女性で、身分も教育もない人、聖書もよくわかっていない人、イエス様に出会ったばかりで、この方がキリストだという確信もない人・・・・・・しかし主は、このようなサマリヤの女 1 人を用いて、サマリヤの多くの人々が信じるようにされたのです！主はすばらしい！！主はあなたを用いて下さいます。あなたを通して多くの人々が主を信じるようになります。信じますか？！

では、サマリヤの女は、どのように伝道したのでしょうか？写真を見て、動作を練習しましょう。



(1) すぐ従う



(2) 自分の話をする



(3) イエス様の話をする



(4) イエス様のもとに連れてくる

・・・・・・では、1つ1つ解説します。

(1) すぐ従う

(ヨハネ 4 : 28) 女は、自分の水がめを置いて町へ行き、人々に言った。

・・・・・・サマリヤの女は、自分がすべき仕事も途中なのに、水がめを置いて、すぐに町へ行きました。自分が出会ったイエス様のことを、人々に今すぐ言わずにはいられなかったのです。「後で」と言う人を、神は用いません。伝道とは、その時を逃したら、もう後でチャンスはありません。神は、今すぐやる人を用います。神が「この人に伝道すべきだ」と示されたら、その御声に従って、すぐにその場で語って下さい。「今語らずにはいられない」という情熱を、いつも持っていて下さい。

(2) 自分の話をする

(ヨハネ 4 : 29) 「来て、見てください。私がしたこと全部を私に言った人がいるのです。」

(ヨハネ 4 : 39) さて、その町のサマリヤ人のうち多くの者が、「あの方は、私がしたこと全部を私に言った」と証言したその女のことばによってイエスを信じた。

・・・・・・サマリヤの女は、自分の体験を正直に話しました。その証しの中で「私は以前夫が5人いた」ということも話したでしょう。あなたの過去の悪かった体験も、主によって、人々の救いのために用いられるのです。自分のありのままの救いの体験談を、素直に証しして下さい。

自分の救いの証しを、以下の順序で、2分以内で言えるように、練習してみましょう。

- 1) イエス様を信じる前 (30 秒) : この部分は、短く簡単に話して下さい。罪深い過去を誇る事が無いようにして下さい。
- 2) どうやってイエス様を信じたか (1 分) : ここを 1 番くわしく話して下さい。「何歳のとき、どこで、誰を通して、どんな言葉によって、どう感じたか」などです。
- 3) イエス様を信じた後 (30 秒) : 自分の生活がどのように変わって、祝福を受けたかを、具体的に話して下さい。「祈りが答えられた、人間関係が良くなった、悪い習慣が止められた」などです。キリスト教用語を使わないで下さい。例えば「CSに通っていた」「救われた」「バプテスマを受けた」「御霊に触れられた」「臨在を感じた」「御声を聞いた」「兄弟姉妹」「ハレルヤ、アーメン」などと言っても、未信者には理解できません。また、説教したり、議論したりしないで下さい。ただ単に「自分はこのように変えられた」とだけ言って下さい。

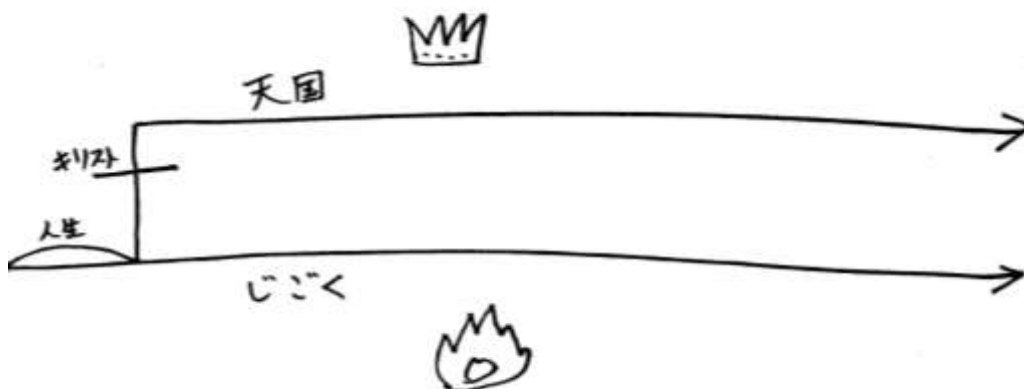
(3) イエス様の話をする

(ヨハネ 4 : 29) 「この方がキリストなのでしょうか。」

・・・福音の要点を、下の図を用いながら、3 分以内で話せるように練習してみましょう。

- 1) 人生は短いですね。
- 2) 生きている間、罪がある人は、死んでから地獄に行きます。罪がない人なんて、1 人もいません。生きている間、どんなに健康で、長生きして、金持ちになって、成功して、有名になっても、死んでから地獄に行って、永遠に苦しんだら、何の意味もないですよ。
- 3) でも、救い主イエス・キリストが、私たち罪人のために、身代わりとなって十字架で死なれて、3 日目に復活して、罪と死に勝利して下さいました。
- 4) このキリストを信じて受け入れる人は、永遠のいのちが与えられて、天国に行くことができます。聖書にはこう書いてあります。
(ヨハネ 3 : 16 暗唱) 神は、実にそのひとり子をお与えになったほどに、世 (あなた) を愛された。それは御子 (イエス・キリスト) を信じる者が、ひとりとして滅びる (地獄に行く) ことなく、永遠のいのちを持つ (天国に行く) ためである。
- 5) 生きている間、どんなに大変でも、キリストを信じたら、天国で永遠の祝福を受けられるのです。
- 6) あなたは地獄に行きたいですか？それとも天国に行きたいですか？ (聞く)
- 7) では、天国に行くには、どうしたらいいですか？ (キリストの十字架を指さす)
- 8) では、一緒にキリストを信じて受け入れる祈りをしましょう。

「主イエス様／私は罪人です／でも私の罪のために／イエス様が十字架で死なれて／私の罪を赦して下さって／ありがとうございます／今私は／イエス・キリストを／私の救い主として／信じて受け入れます／私に永遠のいのちを／与えて下さって／ありがとうございます／イエス様のお名前によって／お祈りします／アーメン」



(4) イエス様のもとに連れてくる

(ヨハネ 4:30) そこで、彼らは町を出て、イエスのほうへやって来た。

あなたの友人、毎週会う人の中から、特に親しい人 3 人を選んで、その名前をノートに書いて下さい。それがあなたの「VIP リスト」です。そのリストを壁に貼って、その 3 人がイエス様を信じるように、彼らに伝道する時と場が与えられるように、毎日祈って下さい。自分だけで祈るのではなく、祈りのパートナーと VIP リストをお互いに交換して、一緒に祈りましょう。なので、自分の VIP3 人と、パートナーの VIP3 人の、合計 6 人のために祈ります。1 週間以内に、自分の VIP3 人に自分の救いの証しとキリストの福音を話して下さい。1 週間後、祈りのパートナーと 2 人で会って、伝道した結果を分かち合いましょう。

(課題) 2 人組になって、以下の練習をする。

- (1) 4 つの動作を覚える
- (2) 2 分証し
- (3) 3 分福音提示
- (4) VIP リストを書いて、お互いに交換して、一緒に祈る。

第4章 芽を出した地

(質問1) どうやって育てますか？

主題聖書箇所 (マタイ 28 : 19-20) それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。

教会のない地に入って、平安の子を見つけて、その家族に福音を伝えて、彼らがイエス様を信じたら、その後はどうするのでしょうか？彼らを育てて、イエス様の弟子とします。では、どうやって育てるのでしょうか？上記のみことばには、イエス様が使徒たちに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい、とあります。そのためにはまず、イエス様の命令が何かを知って、その上でその命令を守り行うように教えなければなりません。

弟子育成の要点は、以下の通りです。写真を見て、動作を練習しましょう。



イエス様の命令を (1) 知って



(2) 従います



イエス様の命令7つ



(1) 悔い改めて信じなさい。



(2) 洗礼受けなさい。



(3) 祈りなさい。



(4) 愛し合いなさい。



(5) 弟子としなさい。



(6) パン裂きをしなさい。



(7) 与えなさい。

・・・・・・では、1つ1つ解説します。

イエス様の命令を（１）知って （２）従います

イエス様の命令を、ただ知っているだけでは十分ではありません。命令を知ったら、それに従順するように、訓練しなければならないのです。どんなに教会生活が長くても、神学校に行って聖書知識がたくさんあっても、教会役員や教会学校教師をしていても、従順していなかったら、その人は霊的に成長しません。従順するときのみ、成長するのです。それだけです。とてもシンプルです。そして初信者のためには、横で助けて教えるメンター、つまり霊のお兄さん、お姉さんの役割をする人が必要です。初信者が、この命令をよく覚えて実行できるように、メンターはよく祈り、いつもチェックして、励まします。畑に出た芽に、水と肥料を与えるようなものです。そうするときこそ、芽が育っていくのです。

では、言っても従わない人には、どうやって教えたら良いのでしょうか？従わない人を、強制的に従わせることはできません。自分から従うまで、待つしかありません。そのような人のためには、もちろん祈り、愛しますが、あまり時間と労力をかけないで下さい。離れていく人を、追いかけないで下さい。ある程度、ほうっておいて下さい。そのような不従順な人と関わりすぎると、メンターのほうが疲れて、失望してしまいます。それよりも、より従順する人に、もっと時間と労力を注いで下さい。従順する人は、教えれば教えるほど、どんどん成長します。そのような人が1人いれば、その人が周りに良い影響を与えます。そして、その1人があなたの同労者となって、あなたと一緒に教えるようになります。そのほうがもっと効果的です。不従順な人も、そのように成長して祝福されている人を見て、チャレンジを受けるでしょう。イエス様も、全ての人に教えましたが、その中から12人を選び、その中でも特に3人（ペテロ、ヤコブ、ヨハネ）に集中して、3年間訓練しました。あなたも失望せずに、限られた時間と労力を、少数の弟子に集中して注ぎ続けて下さい。

イエス様の命令は、次の7つです。

（１）悔い改めて信じなさい。

（マルコ1：15）時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。

（２）洗礼受けなさい。

（マタイ28：19）そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

(3) 祈りなさい。

(ルカ 11 : 9) 求めなさい。そうすれば与えられます。

(4) 愛し合いなさい。

(ヨハネ 13 : 34) わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

(5) 弟子としなさい。

(マタイ 28 : 19) それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。

(6) パン裂きをしなさい。

(ルカ 22 : 19) それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」

(7) 与えなさい。

(ルカ 6 : 38) 与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。

・・・これらの命令を、どうやったら従順できるでしょうか？パリサイ人のように、義務的、律法主義的に、しかたがないからやりますか？いいえ。そのように従順しても、主は喜ばれないでしょう。私たちは、神を愛するから、神に従うのです。神を愛するときに、神の命令を守るのは喜びになります。ではどうすれば、神を愛せるでしょうか？それは聖霊に満たされる時です。

(ローマ 5 : 5) 私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

聖霊に満たされる時、私たちは神の愛を受け、聖霊によって、神をもっと愛するようになります。そして、その聖霊の力、神の愛の力によって、神の命令に喜んで従うようになるのです。だから、大宣教命令の後には、こう約束されています。「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」イエス様は今でも、世の終わりまで、いつも私たちと共にいます。では、どうやって共にいるのでしょうか？それは、キリストの御霊によって、私たちに内住して下さるのです。この聖霊こそが、従順する力です。聖霊に満たされる時に、命令は重荷とはならず、喜びとなります。「やらなきゃ」ではなく、「やりたい」となるのです。だから、聖書はこう命令しています。「御霊に満たされなさい」「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」これらの

順序を図にすると、以下のようになります。

(聖霊に満たされる) → (神を愛する) → (命令に従う) → (成長する)

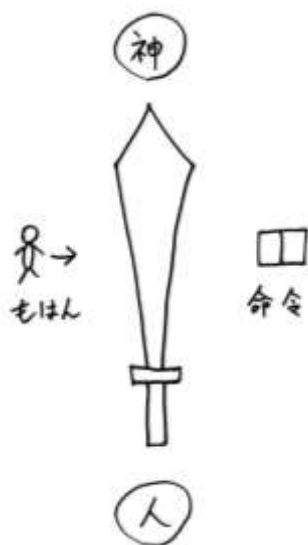
(課題) 動作を覚える。

(質問2) 聖書をどうやって読みますか？

(ヘブル4:12) 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

・・・初信者の霊的成長のためには、いつまでもメンターに食べさせてもらっているのではなく、自分から毎日聖書を読んで、そこから神の御心を学べるように訓練しなければなりません。このような習慣を「ディボーション」と言います。ディボーションには、色々なやり方がありますが、難しすぎると、初信者は途中で挫折してしまいます。なので、以下の簡単な方法を紹介します。

ノートに両刃の剣の絵を描いて、その上には「神」下には「人」と書きます。左には「模範」右には「命令」と書きます。その絵の4項目を見ながら、今日読んだ聖書の言葉を観察して、それを自分の生活に適用していくのです。



・・・・・・では実際に練習として、ルカ 15：11－24 を読んだ後、この 4 項目を探して見ましょう。例えば、以下のように観察することができます。

- (1) 神について：父なる神は、私を愛して、その罪を赦して下さる。
- (2) 人について：人間は、苦しみにあってから、やっと罪を悔い改める。
- (3) 模範：放蕩息子は、へりくだって、悔い改めて、父の家に向かって歩き始めた。
- (4) 命令：神に立ち返りなさい。

(適用) 今私がぶつかっている問題・苦しみを見て嘆くのではなく、これを機会として、早く神に立ち返って、神のふところに抱かれて平安を回復する。

(課題) ルカ 15：11－24 を読んで、4 項目を探して、自分の適用を 2 人組で分かち合う。

第5章 刈り取る地

(質問) 教会とは何ですか？

主題聖書箇所 (I コリント 12:27) あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。

初信者がキリストの弟子となって成長してきたら、信者の共同体、教会を形成するようになります。では、教会とは何でしょうか？覚えやすくするために、ノートに 5 本の指を書いて下さい。その指の 1 つ 1 つに、こう書いて下さい。



・・・では、写真を見て、動作を練習してみましょう。



(1) 教会とは誰ですか？



教会とは私たちです



(2) 教会は何しますか？



1) 礼拝します



2) 交わります



3) 教えます



4) 助けます



5) 伝道します



6) 弟子とします



(3) 教会はなぜやりますか？ 神様の栄光のため



(4) 教会はどこでやりますか？

どこでも



(5) 教会はどうやって成長しますか？

生めよ、増えよ

・・・では、1つ1つ解説します。

(1) 教会とは誰ですか？・・・・・・教会とは私たちです。

(I コリント 12 : 27) あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。

(I コリント 3 : 16) あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。

・・・・・・教会と言うと、ある人は会堂、建物のことだと思います。ある人は牧師先生を想像して「～先生の教会」と言います。ある人は日曜日のプログラムだと思います。ある人は劇場のように思って、観客となって、舞台に立つ役者を批評します。ある人は他人と出会う社交場だと考えます。ある人は心の痛い所を直してもらう病院のように考えます。・・・・・・しかし、教会とは、私たち信者の共同体のことです。私たち自身が、教会なのです。私たちは、お客さんではなく、主人なのです。自分の教会を批判する人は、自分を批判しているのです。自分が教会だとわかれば、教会に対する見方が変わります。「教会に行く」のではなく、「教会になる」のです。あなたが動くなら、それが教会の活動なのです。あなたが変わるなら、教会が変わります。今、みんなと一緒にこう宣言しましょう。「私たちが教会です！」

(2) 教会は何しますか？

教会では、何をしますか？会堂のいすに座って、賛美歌を歌って、祈って、説教を聞いて、献金して、礼拝が終わったら、何人かとあいさつして家に帰る。それだけですか？教会生活とは、そのようなものでしょうか？

(使徒 2 : 42-47) そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていました。そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議とするしが行われた。信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。そして毎日、心をつにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。

・・・・・・初代教会の働きは、以下のように要約することができます。

- 1) 礼拝します
- 2) 交わります

- 3) 教えます
- 4) 助けます
- 5) 伝道します
- 6) 弟子とします

……これこそが教会の本来の姿です。このようにするときに、教会は生き生きして、「主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださ」るのです。私たちが初代教会の姿、イエス様が望まれる、教会本来の姿に立ち戻りましょう！

(3) 教会はなぜやりますか？……神様の栄光のため

(I コリント 10 : 31) 何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。

……教会の目的は何ですか？教会は、何のためにありますか？自分の利益のため？良いお話を聞いて、慰めを得るため？聖書の知識を得るため？歌って元気になるため？自分が活躍してやりがいを得るため？良いことをして自己満足するため？みんなに好かれることをして人気を得るため？……自分のために神を使ってはいけません。神のために自分を使って頂きなさい。「この教会は私のために何をしてくれるか」を問うのではなく「この教会のために私は何ができるだろうか」を考えてください。人間の顔色を見て教会活動をしてはいけません。教会で行う全てのことを、神の栄光のため、神お一人だけを喜ばせるためにしなさい。そうするときに、教会を通して、神の栄光、神のすばらしさが全地に現されるのです。

(4) 教会はどこでやりますか？……どこでも

(使徒 2 : 46) そして毎日、心をつつにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

……会堂がないと、又はある程度の人数にならないと、教会はできないと考える人がいます。しかし、上のみことばによるならば、家で集まっても教会です。場所や人数を制限してはいけません。家だけではなく、野外の広場でも、木の下でも、川岸でも、喫茶店でも、食堂でも、学校の教室でも、職場の休憩室でも、どこでも、信者が集まって礼拝するなら、そこが教会なのです。「人数が多くなったから、もっと大きな会堂を建てないと」と考える必要はありません。家の教会を次々と生み出していくほうが、もっと効果的です。会堂に連れて行くことだけが伝道ではありません。あなたが教会なのですから、あなたが未信者の所に行けば、そこが教会になるのです。

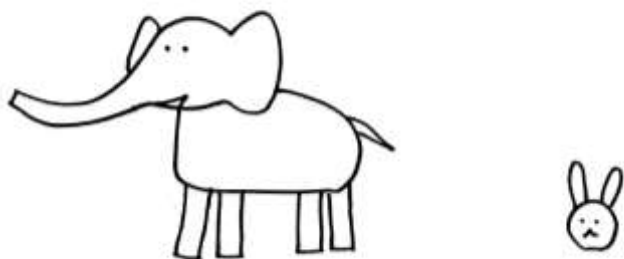
(5) 教会はどうやって成長しますか? 生めよ、増えよ

(Ⅱテモテ 2:2) 多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。

. この聖書箇所は、パウロがテモテに書いたものです。このみことばを読むと、弟子作りの4世代があることがわかります。

(パウロ) → (テモテ) → (忠実な人) → (他の人) (あなた) → (?)

このようにして、福音はあなたの所に届いたのです。では、あなたはこのバトンを、誰に渡しますか? あなたが1人を弟子として、その弟子がまた弟子を生み出すなら、2人が4人となり、4人が8人となり、8人が16人となり、16人が32人となり これを33回繰り返すと、85億8993万4592人となり、世界人口を超えるのです!



ゾウは、18年たって1頭を生みます。これに対して、ウサギは、たった4ヶ月で一度に7羽生むそうです。そうすると計算上では、3年後には4億7600万羽にもなります。(「敬天愛人」福田充男著、113ページ)

大きな教会も、確かに必要です。でも、そのような「ゾウ型教会」は、10数年に1個しか生まれません。しかし、家の教会のような「ウサギ型教会」は、規模が小さいので、次々に再生産することができます。民族全体を福音化、弟子化するには、このようなウサギ型教会がたくさん必要なのです。神は人にこう命じました。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。」(創世記1:28) あなたが伝道した人は今、どうしていますか? あなたが弟子とした人は、また次の人を弟子としていますか? あなたの教会は、新しい教会を生み出していますか? 私たちは、次々と弟子を生み、教会を増殖して、全地を主の栄光で満たしましょう!

(課題) 動作を覚える。「4つの畑トレーニング」を教えてあげるべき人3人の名前を書く。

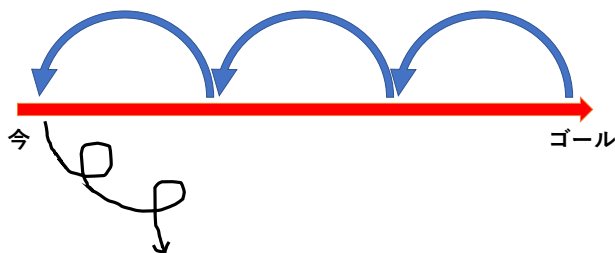
第6章 ビジョン実現のために

(質問) ビジョン実現のために、何が必要ですか？

主題聖書箇所 (ハバクク 2:14) まことに、水が海をおおうように、地は、主の栄光を知ることによって満たされる。

私たちはよく「今の私には何ができるか？」を考えます。そうすると、現状の困難を見て、限界を感じ、「自分にはできない」という結論を出してしまいます。しかし、ビジョンの実現を信じる人は、こう質問します。「このビジョンを実現するために、今何が必要か？」次の順序で考えましょう。

- 1) 最終ゴールはどこか？
- 2) 今自分がいる所はどこか？
- 3) ゴールにたどり着くには、どの道で行くか？



・・・私たちの最終ゴールは、主の御国の実現です。そのためには、全地に主の栄光が満ちなければなりません。そのためには、全ての民族、全ての地域で、主の教会が光を放ち、全世界を福音化しなければなりません。今いる所だけにとどまって伝道しているのは不十分です。では今、教会がない民族、地域はどこでしょうか？その地を調査しなければなりません。目標とする民族、市町村が定まったら、次には、そこで教会を生み出すにはどうしたらいいか計画を立てます。例えば、次のようにします。

- 1) A市・・・人口1万人
- 2) 目標信者数・・・1千人 (全人口の10%)
- 3) 必要教会数・・・50個 (家の教会1個に20人とする)
- 4) 教会リーダー数・・・50人

・・・・では、そのようなたくさんの教会リーダーを、どうやって生み出しますか？それは、ウサギのように生み出すのです。この「4つの畑トレーニング」のような簡単で短期集中型の訓練は、受けた人がすぐに他の人に教えることができます。そうやって、教会開拓者を大量に生み出していくことができるのです。神学校で3年学んで、按手して、給料を支払う牧師・教職者タイプのリーダーでは、時間とお金がかかり過ぎて、必要数に到底追いつきません。ウサギ型教会、家の教会では、世の仕事を持ちながら伝道する、一般信徒がリーダーとなります。普通のクリスチャン家庭が、家で教会を始めて、その家庭のリーダーが牧会伝道していくとき、教会が教会を次々と生み出していき、その地域を福音で満たすことができるのです。

（課題）教会開拓する対象地域の人口、目標信者数、必要教会数、リーダー数をノートに書く。2人組で、そのビジョン実現のために祈る。

あとがき

この「4つの畑トレーニング」は、2013年にミャンマーのマンダレーで、アメリカ人のテリー（Terry Spinelli）宣教師が講義したものを、私が自分なりに要約し、編集したものです。テリー先生は以前インドで教会開拓倍加運動を指導して、今は世界各地で教会開拓者を訓練しています。この講義を受けたとき、私は「こんなにシンプルでわかりやすく、教会開拓の要点を伝えられるスキルがあるのか」と思って感激しました。それ以来、ミャンマーや日本、韓国の諸教会でメッセージする機会がある度に、この内容を伝えてきました。このトレーニングの特徴の1つは、手の動作によって要点を表すことです。なので、見る側も面白く、すぐに覚えることができ、次の人にすぐに教えることができます。未伝道部族では、文字を読めない人々が多いので、これは強力な伝達・教育手段となります。この文書は、日本の教会・クリスチャン向けに、講義用のレジメとして、要点を説明して、紹介するために書きました。関心がある方は、私までメールを送って下さい。
(wupmjapan@gmail.com)

またこの講義を要約した動画もあるので、下記のURLをクリックして、ぜひご覧ください。

- (1) <https://youtu.be/qXpaVnFALYE>
- (2) <https://youtu.be/Bwz-WM5DFQ>

また、全ての方法論がそうですが、このトレーニングは「これさえすればうまくいく」といったものではありません。命を生み出すのは命です。教会開拓は主のわざです。人はその道具にすぎません。「私たちは、神の協力者」（Iコリント3:9）なのです。ただ、その主のみわざに協力するときに、より賢く効果的なやり方があるのなら、何からでも謙遜に学ぼうとする姿勢と意欲を持つことが大切だと信じます。

このトレーニングを通して、日本と世界の各地に主の教会が次々と生み出されて、主の栄光が全地に満ちますように、心から祈ります。

2018年8月29日 伊藤 仁